

創業以来130余年、大成建設は「人がいきいきとする環境を創造する。」を使命に発展を遂げてきた。その高い理念と技術力を支えるのは多士済々のマンパワー。頼もしい10名の精鋭たちの仕事を5回にわたって紹介する。3回目は脂ののった働き盛り世代から、コンクリート技術と国際事業のスペシャリストの仕事観とは。

## 国際舞台での活躍を支える日々是前進の心意気

ワールドワイドに事業を展開している大成建設では、グローバルな視野を持ち活躍出来る人材は貴重な戦力だ。現在、国際事業本部の企画管理室で、受注情報のとりまとめ、中長期経営計画の立案、予算案の作成、海外からの来賓の対応までを柔軟にこなす小川象平課長は、ベトナムと香港で多くの事業計画に携わってきた。「海外事業所の事務職というのは、技術的な部分以外の全ての折衝が仕事なんです。初めて赴任したベトナムでは経済制裁が解けた直後で、日本企業としては初の大型プロジェクトでした。そこで日本の規格と欧米型スタンダードとの違いを説明して納得してもらった経緯もあり、黎明期を開拓したという感覚があって面白かったんですね。建設副大臣といった要人と直接話す機会もありますし、海外は活動のフィールドが広い。それで味をしましました(笑)」

4年間のベトナム赴任の後、国内勤務を経て香港でまた4年を過ごす。世界



折衝ひとつとっても、国際感覚が問われる難しい仕事だ。



的に名高いテーマパークの建設では現地企業とパートナーを組み、入札から完成までの大任を果たした。アメリカ人、イギリス人、中国人、日本人が入り乱れるまさしく国際色豊かなプロジェクトで気苦労が多かった分、思い入れもひとしおだ。「砂漠のように何も無い埋め立て地から造っていっただけに思い出深いですね。もちろん文化も商習慣も違う人たちと仕事をするわけですから面喰うことは多かったですよ。我々大成マンは“とにかく事業を成し遂げる”という意識が強いんですが、国によってやり方が少し違う。気持ちをひとつにするのはなかなか骨が折れましたね。でも、何とか成し遂げたという充実感は格別でした」

海のものとも山のものとも知れないゼロの状態から数え切れない人々の思い

と手と手が重なり、ひとつの形となって結実する。自身も確かにその一員には違いないのだが、小川課長は「自分がやったという実感があまりないんです」とも言う。そのココロは？

「不思議なんですよ。知らず知らずのうちに力が合わさって、自分ひとりでは想像もつかないような大きなことが出来ている。結局は一日一日、一人ひとりの努力の集積なんです。少しずつでも前進していけばいつかゴールへたどり着ける。地道な積み重ねが我々の仕事の本質なんです」

一朝一夕で結果が出るものではないが、その一日はいつか必ず意味を持つ。だからこそ、粛々と日々を全うすること。国際事業というダイナミックな場での活躍を支えているのは、足元をしっかりと見つめるこの視線だ。

# [大成建設]③ 夢をカタチにする舞台

## 超高層街道ひとすじ天井知らずの探究心

野球、サッカー、ゲーム、昆虫。少年が夢中になるものにも色々あるが、“超高層ビル”というのはかなりユニークな部類に入らなう。技術センターの陣内浩主任研究員は、東京育ちの都会っ子。自宅から見える新宿副都心の超高層ビル群に心奪われ「いつかは自分も超高層に関わるコトがしてみたい!」という思いを募らせた。夢はやがて現実に。建築を勉強し大成建設に入社後は、特殊コンクリートを専門とする新しい建設材料の研究開発を手がけるようになる。「日本一高い建物の横浜ランドマークタワーや、東京都庁を建設していたのが大成建設でした。あんなすごい建物を建て

るんだから、きっと技術はあるはずだ、という単純な考えで(笑)、超高層をやるならココだ、と思ったんです」

高層建築には、高強度で軽量なコンクリート柱が不可欠だ。陣内主任研究員が開発を手がけた超高強度コンクリートはタワーマンションなどに数多く使用され、大成建設の超高層建築を支えるコアな技術となっている。

「自分が開発したものがそうやって実際の建物に利用されるのは非常に魅力的ですよ。超高層建築の工事現場に施工管理担当として配属されたこともありますが、建物の一番上に行くと、工事が進むにしたがって周りの建物の見え方が変わっていくんですね。ある日少し離れた所から見て“ああ、あんなに大きくなった”と思うと、やっぱり隣の建物より



日々、超高強度コンクリートの研究・開発に明け暮れる。

かわいく見える(笑)。現場の面白さがその時わかりました」

ひとつの建物が完成し達成感が味わえる現場にひきかえ、研究にはゴールがない。だが、そこにこそ醍醐味がある、と力を込める。

「そもそも研究者って研究したい人の集まりですから、その先が知りたくなくてキリがないんですよ。遊びたいのと同じくらい研究をしたい。自己啓発してるのか、仕事してるのかよくわからない(笑)。でも、やるからには目標は高い方が、モチベーションは確実に上がります。大成建設の進歩は、多くの先輩スペシャリストたちが挑戦し続けてきた歴史そのもの。その中でも特に我々は先端技術を扱っているわけですから、常に挑戦し続けていかないと。そうすれば満足感のある仕事にたくさん出会えるはずなんです」

気持ちいいほど超高層街道まっしぐらに突き進み、休日もついつい論文を考えてしまうという陣内主任研究員。燃え続けるこの研究者魂が、確かな未来の礎となる。こうなったらとことん行くところまで行ってほしいものだ。



### File 006 国際事業

国際事業本部  
管理部 企画管理室  
課長

**小川 象平**  
Shohei Ogawa

### 自分の“地図に残る仕事”

入社1年目/東京支店会計室に配属。巨大支店で日々の会計業務に圧倒される。

入社5年目/初めての転勤で大阪支店へ。日本発の24時間空港、関西新空港関連のプロジェクトに配属。

そのスケールの大きさに、また圧倒される。

現在/事業の大きな柱に成長した国際事業本部に再び配属。「**僥倖不羈**」「**不将不迎**」を座右の銘に、更なる世界のビッグプロジェクトへ!

### File 005 建築技術

技術センター建築技術研究所  
建築構工法研究室  
主任研究員

**陣内 浩**  
Hirosi Jinnai

### 自分の“地図に残る仕事”

入社1年目/総事業費約3,000億円の大規模再開発事業に携わる。微力ながらも、大きなプロジェクトの一端を担う。

入社5年目/研究所配属時より研究開発に没頭した高強度セメントが実際の建物に使用される。

念願が叶い、仕事に燃える。

現在/日本最高強度の超高強度コンクリートを開発し、これを使って安全で快適な超高層住宅を建設中。現在は次のプロジェクトの準備と、国内外への技術発信で忙しい毎日をおくっている。